

保養相談会の活動からみえる被災地の現状

NPO 法人みみをすすすプロジェクト

理事長 みかみめぐる

(311 受入全国協議会 共同代表)

1. 現地相談会の活動について

311 受入全国協議会（通称うけいれ全国）は 2011 年 3 月に発生した東日本大震災と東京電力福島第 1 原発事故による被災者・避難者救済のために活動する人々の、特に放射能被害者に対する受け入れ支援を重点的に行う団体を全国的にネットワークして 2012 年 9 月に正式発足し、現在 59 団体が加盟している。

うけいれ全国のなかで最も重要な活動が『ほよ〜ん相談会』という名前の現地相談会で、小・中学校が長期の休みに入る前に定期的に開催されている。2015 年度までは夏・冬・春の開催だったが、2016 年度からは運営上の都合で夏・冬に変更。2012 年当初の小さな相談会や宮城県、栃木県開催も含めるとこの活動は 2017 年 11 月で 38 回を数えた。

現地相談会には毎回、保養プログラムを持ちよって全国各地から 25～45 団体が参加し、それぞれの団体がブースを設けて来場者と直接向き合う。

保養プログラムとは、原発事故により放射能の影響と不安がある地域に暮らす人々が休日などを利用して他の地域に滞在することで、放射能の影響や不安から一時的に離れることで体調を整え、心身の疲れを癒すことを目的として企画運営されている。

来場者は直接受け入れ側と話し合うことで多くの情報を得ることが出来ると同時に、放射能に対する不安をなかなか口にできない日常生活とは違う解放感が得られる。

相談会の会場内には健康相談にも直接対応できる医師による『こころとからだの相談室』や心身をほぐして免疫力を高める手当法の専門窓口『快医学手当て隊』も併設している。

2015 年の相談会



2016 年の相談会



2017 年夏 浜通り相談会



2. 最近2年間の来場者数

2016 年		来場者数	
6 月 4 日	中通り相談会（郡山市）	103 家族	220 名
6 月 5 日	浜通り相談会（いわき市）	119 家族	287 名
11 月 5 日	県南相談会（西郷村）	16 家族	35 名
11 月 6 日	県北相談会（福島市）	60 家族	124 名
2017 年			
6 月 3 日	浜通り相談会（いわき市）	144 家族	344 名
6 月 4 日	中通り相談会（二本松市）	98 家族	225 名
11 月 18 日	中通り相談会（郡山市）	70 家族	138 名

2017 年夏 中通り相談会



2017 年冬 中通り相談会



2017 年冬 中通り相談会



3. 来場者アンケートから

- ・いわき相談会の参加者からは、参加して良かったこととして、
「夏休みの保養情報が一度にたくさん得られた」
「具体的に聞けた。話せたことで信頼につながった」
「全国の保養団体と直接話しができた」
「同じ気持ちのお母さんたちと話ができた」

という感想が寄せられた。以前保養でお世話になったスタッフに再会できたことが嬉しかったという意見もあった。

- ・二本松相談会の参加者からは、上記と同様意見のほか、
「HPやパンフレットだけではわからない詳しい内容が相談できた」
「放射能の心配事を聞いてもらえた」

「友人・知人と再会できた」などの意見が寄せられた。

- ・両会場とも「よかった」「まあよかった」という感想がほぼ 100%を占めた（いわき市 98.2%、二本松市 100%）。これまで以上に満足度が高かった。
- ・今回初めて参加という人が、いわき市で 42.1%、二本松市で 41.3%を占め、これまでと比べて多かった（前は西郷村で 28.6%、福島市で 31.8%）。震災後に生まれた乳幼児を連れての参加も多く、こうした若い家族にも必要とされていることが明らかとなった。
- ・保養に出かける時は親子で毎回 10 万円以上の出費があり、普段の生活費を切り詰めながらいつまで続けられるか心配という声もあった。
- ・よろず相談のブースでは、両会場共に移住相談があり、「毎年保養に出なければならぬ不安な生活を続けていくよりも移住した方が良いと考えが変わった」というのが理由。
- ・『こころとからだの相談室』を設けていることで、誰にも相談できず孤立している人とコンタクトをとることができている。最近は心の悩みを訴える人が多く、相談会の担当医師との出会いをきっかけに継続して相談するケースもみられる。

4. 短期的変化

- ・相談会は福島県や福島県教育委員会、開催地の自治体などからの名義後援を得ながらチラシを開催地の小学校・幼稚園・保育園を通して各家庭に配布している。ネット情報を得にくいより多くの人達に保養や相談会活動を知ってもらうための努力を重ねているが、いわき市の相談者の 76.8%、二本松市の相談者の 42.6%はチラシを見て来場している。
- ・リピーターも多く、特に二本松会場の参加者のなかには、相談会の情報をうけいれ全国のHPに自らアクセスして得ている層が多いことが明らかとなった。一部の層に保養が定着してきていることが分かる。
- ・震災・原発事故後、結婚して子どもが生まれた若い親たちは、家庭をもってから放射能の不安をいなくようになったと話すが多く、相談会はそういう若い親たちの不安と向き合う場となっている。
- ・相談会に積極的に参加する父親の姿が目立つようになってきた。毎年保養に出掛けることを通じて、父親の理解が得られやすくなっているものと考えられる。
- ・同様に、毎年保養に出掛けることを通じて、保養仲間とも言えるようなネットワークが形成されてきており、そうした仲間内では気軽に保養のことを話題にしやすい雰囲気が出てきている。しかし相変わらず、保養に関心の人たちとの間には断

絶があり、不安を口にするバッシングを受ける話も多い。

- ・震災から6年がたち、保養受入団体の解散もみられるようになってきている。継続している団体も財政面が苦しくなってきたり、スタッフの人数不足などの課題を抱えている。相談会において受入団体の間で情報交換をすることで、今後の方向を検討する際のヒントを得たという団体も複数存在する。

- ・健康相談ブースには、原発事故発生当時、放射能が降っていることも知らずに子どもを屋外に連れ出していたこと、避難せずに今まで県内の同じ場所に子どもと住み続けてきたこと、6年過ぎた今年になって家族の体調不良が多くなっていることなどに自責の念を持つお母さんの相談も多い。

- ・健康被害は鬱病患者の増加も含め確実に増えており、計画的避難区域が解除されていくこととの現実的なギャップが広がっている。相談会は被災地のそうした問題が顕在化するひとつの重要な場として機能している。特に今年の郡山相談会では、他の会場に比べて健康相談を受ける人達の比率が高いという気になる傾向が見られた。それについては『快医学手当て隊』責任者（鍼灸治療家）からこのような報告があがっている。

手当て隊ブースに20名を越える方が訪れ、時間的制約もあり、お断りする方もいた。

健康相談ブースの相談数は増えている。

自然医学に関心を持つ母親たちがこの1、2年で急速に増えていることと連動していると思われるが、危機的状況の認識が高まっていることが背景にあると思われる。

先天性心疾患、肝臓がんなど重篤なケース以外は、だるさ、頭痛など不定愁訴がとても多く、本格的に被ばくによる影響が出てきていることは間違いありません。

5. 今後について

保養に出かける人達は一年間に9,000人以上いるということが民間の調査で明らかになり、現地相談会も保養企画を求める人達の大事な出逢いの場となっている。しかし、先にも述べたように受け入れ活動は善意ある民間の人々の努力に支えられているばかりで、そうした活動を担ってきた団体は確実に疲弊している。

チェルノブイリ事故があったウクライナでは国が主導して保養が続けられているように、日本も国が保養に出かけることや保養受け入れ活動をしっかりと支援すべき

である。

被災地の問題が顕在化する現地相談会の活動は、今後も知恵を出し合いながら続けていかなければならない。

先着順で、北海道と山口県の
野菜をプレゼント♪

どこにお住まいの方でも大歓迎!!
岩手県、宮城県、山形県、栃木県、茨城県など
福島県周辺の方も大歓迎です。

2017 夏

ほよ～ん 相談会

参加費は
無料です!

- * 夏休みの保養プログラム (子ども企画、親子企画、ホームステイなど)
- * 障がいがある子ども、乳幼児も、参加できる保養はあるのかなあ・・・
- * 県外保養で、身体も心も休めて、健康回復したいなあ・・・
- * これからの将来 (学校、寮生活、仕事、移住など) について聞きたいなあ・・・
- * お子さんの健康相談に専門家 (こころとからだの相談室) が対応します。
- * 心身のほぐしや免疫力を高める手当法の専門窓口 (快医学手当て隊) も併設。

6/3 (土)

浜通り相談会(いわき市)

13:30～17:00

会場: いわき市生涯学習プラザ4階
いわき市平字一丁目1
ティールンビル

6/4 (日)

中通り相談会(二本松市)

11:00～15:00

会場: 二本松・福島県男女共生センター1階
二本松市郭内一丁目196-1

主催: 311 受入全国協議会
協力: 未知の会、読書委員会、フクシマの子ども保養プロジェクト
ライフケア、Earth Angels、かふえぶらす郡山
3a1 郡山 (安全安心アクション in 郡山)、青空保育たけの子
はっぴーあいらんどネットワーク、いわき放射能市民測定室たらちね
いわきの子どもを守るネットワーク、銀河のほとり
森のまなここめらの会・南会津、とちの実保美応援団
後援: 福島県、福島県教育委員会、いわき市、いわき市教育委員会
二本松市、二本松市教育委員会
協賛: 特定非営利活動法人 CWS Japan

特に託児はありません。お子さんの管理は
保護者の方の責任をお願いいたします。

お問い合わせ

全国各地の団体がブースでお待ちしています。
福島県に帰ってきた方もどうぞお気軽にいらしてください。

311 受入全国協議会 (愛称: うけいれ全国) <http://www.311ukeire.net/>
原発事故被災地から保養や移住を受け入れている全国の団体でつくっているネットワークです!!
TEL 090-3390-9946 (うけいれ全国 みかみ)
メール ukeire.soudan@gmail.com (うけいれ全国 早尾)

保養情報サイト / ほよ～ん相談会 <http://hoyou.isshin.cc/>
ほよ～ん相談会は放射能からのちを守りたいと願う全国の心ある人々に支えられて運営しています。

311
うけいれ全国
311 受入全国協議会
CWS
JAPAN

ほよ～ん相談会 2017 年夏のチラシ * 毎回かわいらしく元気なデザインを心がけています

2017 年 12 月 3 日 (日) 北海道大学学術交流会館大講堂
『一緒に考えましょう講座』総集編『原発事故から6年』* 資料
* 主催: 福島チェルノブイリ研究会